



令和6年1月17日発行 NO10
飛騨県事務所 振興防災課 振興防災係
家庭教育推進専門職 : 水 口 悟
TEL : 0577-33-1111 (内線 235)
E-mail : mizuguchi-satoru@pref.gifu.lg.jp

わが子と一緒に学ぼう！

< 通信【飛騨っ子】 >

- ◇ 第7回「いのちの教育」情報交流会 家族の大切さ 自立心 行事参加型
○期日:令和6年12月4日(水) ○担当:下呂市「チーム生きる」 ○場所:下呂市民会館&竹原中学校

本会開催の意義(目的)

『いのちの教育』が、自尊感情を高め、家族や自他への感謝の気持ちを育み、自他のかげえのない命を大切にしながら自分らしく生きていく“生き方教育”につながっているという認識のもと、各自治体や団体で推進している『いのちの教育』の内容(成果・課題)について定期的に情報交換することで、それぞれが関わる子どもたちへのより質の高い『いのちの教育』を提供していくための学びの場とする。



< 市町村を越えて、WEB交流 >

県内の関係団体の皆さんが主体的にネットワークをつくり、それぞれが関わる子どもたちに向け、より良い『いのちの教育』を届けようと情報交流会に取り組まれています。今年度で7回目となります。

【午前の部 オンライン交流】

今年度は県内5市町村からの関係団体等による交流が行われました。より質の高い『いのちの教育』の在り方について、お互いの実践に対して意見や質問などが交わされました。赤ちゃんに触れる体験の大切さ、親子が同じ内容を学ぶことの大切さ、保健センターなど関係課との一層の連携、学校との連携の在り方等々、実践を進めているからこそその意見がたくさん出されました。交流会には、保護者スタッフの方々も参加されていて、とても重要なことだと感じました。



< 授業 下呂市立竹原中学校3年生 >

【午後の部 授業参観 『幸せの性』】

授業の内容や展開はとてもよく練られていて質が高いです。同様の授業を市内6つの中学校に届けていて、1つの授業が終わる度に授業の振り返りをされているそうです。

授業では、「チーム生きる」のメンバーの方々の方々の真剣なメッセージの1つ1つを真剣に受け止めながら、仲間と交流する生徒の皆さん。また、生徒皆さんの姿を見守り、ともに考える職員の皆さん。授業に関わる皆さんの十分な内容の理解・十分な信頼関係・十分な配慮がより良い『いのちの教育』の授業を創出しています。授業の最終、代表の生徒さんが学級の仲間に向かい「悩みや不安はちゃんと相談しようと思う」と堂々と強い声で発した姿がとても印象的でした。正しい知識が自分を守るライフスキルとなり、自分らしく生き抜く力を育みます。

<参加者の感想>

- ・いのちの教育は、どの市でも大切にされていますが、その具体的な指導についてはなかなか他市のことを知る機会がないので、積極的に進めている市が情報交流される機会はとても重要な場になると思います。
- ・市の実態により、そのまま活動を取り入れることは難しいこともあると思いますが、情報交流はもちろん、深く関わる方たちが、つながりをつくってくださっていることが本当に素晴らしいと思います。

◇ 飛騨市立宮川小学校 家族地域授業参観日 家族の大切さ 自立心

○期日:令和6年11月29日(金) ○主催:学校+PTA 子育て委員会 行事参加型+親子体験活動

<主な日程>

- ① 11:40～ 給食試食会・食育講話
- ② 13:00～ あゆっこ会議(子ども会議)
*今年度の振り返りと来年度に向けて
- ③ 13:40～ 親子参加型授業参観
*1～3年:大豆から豆腐をつくる
*5・6年:たばこの害について
- ④ 14:40～ 子育て委員会主催親子研修

○ あゆっこ会議(子ども会議)

テーマ:今年度のあゆっこ活動とこれからのあゆっこ活動について

子どもみて 動いてくださる 地域の人
ぼくらのために あったかいなあ

飛騨市社会福祉協議会 福祉のつどい

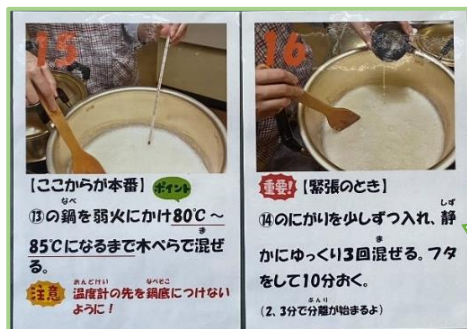


<あゆっこ会議(子ども会議)>

冒頭には、福祉標語の表彰式がありました。地域の方々が学校の教育活動を支え、子どもたちを育てていることが伝わってきます。また、あゆっこ会議には保護者の皆さんも参加されていて、子どもたちと一緒に年間の活動を考えて発言される姿がとても印象的でした。正しく「親子学校運営協議会」です。

<主な意見>

- ・池ヶ原湿原の課題を解決 → 美しい景色を守りたい。
- ・吉城高等学校写真部との交流 → これからも続けたい。
- ・太鼓に初めて挑戦できるようになった。来年も音楽会や文化祭を続けてほしい。



○ 大豆から豆腐をつくる(親子参加型 授業参観)

<豆腐づくりの工程>重要!(緊張のとき)
にかいを少しずつ入れ、静かにゆっくり
3回混ぜる。フタをして10分おく。



<豆腐づくり 親子参加型 授業参観>

JAの方々から豆腐ができるまでの工程や注意事項等の説明を聞きました。材料となる大豆は、子どもたちが学校の畑で育てたものです。親子みんなが主役となり、声をかけ合い活動し豆腐づくりに向かいます。学校教育と家庭教育のバランスが絶妙です。楽しい!



<美味しそう～!>

おからとシーチキンときゅうりとマヨネーズの和え物にも挑戦。担当の児童が小さなスプーンにとって少し味見。「う～ん、いいかな?」そして、いよいよにかいを入れる瞬間(緊張のとき)となりました。担当の児童が、にかいを入れて混ぜて覗き込んで「これでいい? どう? どう?」...周りの保護者みなさんが覗き込んで「大丈夫!!」

学校の教育活動における子どもたちの姿は、家庭や地域をつなぐ大きな架け橋になっています。学校は地域コミュニティーの核となる役割を果たし、子どもたちは豊かなコミュニティーに包まれ逞しく育っています。